

令和元年6月4日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03138

研究課題名(和文)大航海時代のイベリアンインパクトと日本社会における民衆意識形成に関する総合的研究

研究課題名(英文)Overall studies on the relationship between Japanese people's awareness composed and Iberian impacts in the age of European voyages of discovery

研究代表者

大塚 英二(Otsuka, Eiji)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：40201975

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,670,000円

研究成果の概要(和文)：大航海時代に日本列島社会に大きな影響を及ぼしたイベリア半島勢力と日本民衆とのつながりについて、特に民衆の自己意識形成の問題に焦点をあて、歴史・言語学・文学・法学の分野から総合的に研究した。潜伏キリシタンが保管していた布教用ノートである「吉利支丹抄物」の完全翻刻と完訳に注力し、公刊した。その上で、本書を通じたキリシタン宣教師と日本民衆との関係性について論じた。それ以外には、日本の近世文学作品や外国資料を用いて、イベリア半島文化とのつながりの深さについて論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、イベリア半島勢力の日本社会への影響については、キリシタン禁教、近世国家制度の形成、関連する言語及び文化の残存等々の問題として論じられてきたが、必ずしも日本人の意識形成、とりわけ自我意識の問題にまで論究されることはなかった。本研究では、その影響の重みをより強く意識し、中世までの主に多神教的世界観と仏教によって規定づけられた民衆意識と、イベリアンインパクトを経た近世近代の民衆意識との間にある違いが分るような形で、文学作品や歴史的事実を読み解くようにした。これにより、現代日本人が有する法秩序観念等に至るまでの意識構造が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：We studied on the relationship between Japanese people and Iberian people that had big effects on the Japanese Archipelago in the age of European voyages of discovery. The studies were specially focused on how Japanese people's awareness was composed, and were synthesized from the fields of history, linguistics, literature, law. We did our best to reprint and translate "Kirishitan Shomotsu (吉利支丹抄物)" which was underground Christians had kept to propagate, into current Japanese, and published it finally. So, We argued how missionaries were connected with Japanese people through it. And then we argued how Japanese culture was deeply connected with Iberian culture by studying Japanese early modern literature and foreign material.

研究分野：日本近世社会史

キーワード：吉利支丹抄物 民衆意識 近世文学 比較言語 法秩序 普遍思想 イベリアンインパクト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) これまで大航海時代にかかわる研究は、隠れキリシタンの迫害史や、いわゆるキリシタン物を用いた文学研究がほとんどであったが、歴史学の分野から「イベリアンインパクト論」が提起されたことで、地球規模での日本地域社会形成論の検討が行われるようになっていた。

(2) 日本地域社会の形成を見る場合、大航海時代における異文化間接触は非常に大きな意味があり、特に宗教的世界観を背景とした民衆意識のあり方を検討する課題が出てきていた。とりわけグローバル化する現代社会において、地域・個人レベルでの民衆的自我意識形成の様相を検討する作業には特別の意義を見出すことができる。

2. 研究の目的

(1) 人類史の一大転換点を「大航海時代」に求め、その只中にあった「黄金世紀」のイベリア半島諸国による日本社会への影響を多方面から検討し、国民国家形成以前の日本民衆の宗教的観念を含めた意識全般の構成を立体的に理解する。

(2) 歴史学・文学・言語学・地理学・法政治学等の各学域固有の方法をもって、前近代日本の社会文化状況に迫ることで、複眼的に定位される日本民衆の意識構成を文明的に評価し、神と対峙してきた「自我」(イベリア諸国)とは区別される、いわば「他者との統合」であるかのような日本的自我＝意識の形成について考究する。

3. 研究の方法

(1) 意識の形態と構成を 社会・空間、言説・表現、思想・観念の3つの側面から検討する。では都市空間・遺称地名・生活環境・キリシタン遺物・古文書といったモノに即して実態を解明する。では日本語・スペイン語・ポルトガル語などについて、古語から近代語への変化、一人称成立に焦点を結ぶ自我意識の形成などを検討する。ではキリスト教・仏教などの宗教意識、政治・風習を含む社会意識などの価値意識を解明する。

(2) 上記の個別研究をもとに、それらの総合化を目指す。論理化・抽象化して前近代日本社会における民衆意識像を再構成するために、スペイン及びポルトガルの研究協力者とコンタクトを取り、本研究の進捗状況を示し、比較史的な観点から助言を貰う。併せて、日本とイベリア地方とでセミナーを開催し、成果を広く世界に問う。

4. 研究成果

(1) 大航海時代の日本 - スペイン交流史の研究と、それに関連したシンポジウムを『日出づる国と日沈まぬ国』としてまとめ、大航海時代におけるスペイン語と日本語の出会い、キリスト教の受容と戦国時代の日本人の意識の問題、前近代日本文学における自我意識の発露の仕方、ロシア資料に見る18世紀前半の日本とヨーロッパの関係性、日本における君主制の歴史的特質と信仰の問題などについて問題提起し、異文化交流のあり方を多面的に検討した。これは、イベリアンインパクトを通じた日本列島上の民衆意識の構成分析に大きな道筋を開くものとなった。

(2) 16世紀末頃に外国人宣教師と日本人キリシタンとにより布教用のノートとして作成された「吉利支丹抄物」をはじめて全文翻刻のうえ、完全現代日本語訳して公刊したことは、今後の大航海時代研究に大きな貢献をなす。宣教師の言葉と当時の日本人の教養とが交叉する中で生まれた本書の分析により、ヨーロッパにおける悪魔の概念とそれを天狗と表現した日本語での比較文化・言語論的研究の展開など、新たな文化研究の萌芽が生まれた。

(3) ポスト大航海時代にも目を向け、スペイン・マドリードのサンパブロCEU大学から2人の研究者を招聘して「大航海時代からグローバル現代社会へのパラダイム」をテーマにしたシンポジウムを開き、グローバル化の時代における民主主義の変容と憲法学のありよう、近代国家形成と民衆運動との関係性等について問題提起をした。これは比較憲法学の分野において大きな貢献をなすと思われる。

(4) ポルトガルのミーニョ大学においてコロキウムを開催し、日本文学に現れた外来者たち、中世後期の法意識の変化、キリスト者迫害の歴史と地域性、近現代の民衆の法意識への系譜などをテーマにして報告を行い、日本文化や社会状況、民衆意識の面において、中世後期から近世期にかけてイベリア半島勢力からの強い影響のあったことを確認した。これは、文化や民衆意識から行う総合的な地域研究の可能性を開くものとなる。

(5) ブラジル・カンピーナス大学における日本研究国際学会において、大航海時代の異文化間交流にかかわるパネル発表をして、日本文化の歴史的構成について問題提起を行った。「吉利支丹抄物」の成立と地域的特質の問題、「グローバルヒストリー」と日本中世仏教の歴史的位置の問題、日本における人民主権の歴史的展開の問題、移動する時代と言葉の問題などを主たる

テーマとした。これは、グローバル化する現代社会の先駆けとしてあった大航海時代を文化論・地域研究として改めて問い直すものとなろう。

(6) 大航海時代以来の日本文学の展開として、日本の俳句が今や「HAIKU (ハイク)」として国際的に広く展開している事実を、北米・南米・欧州の事例から検討した。イベリア半島とのかわりという脈絡ではないが、文学における各言語上の音韻の問題などから「HAIKU」の普遍的展開を紹介しており、今後の研究的発展が期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計39件)

1. 大塚英二、『吉利支丹抄物』における天狗と悪魔、愛知県立大学国際文化研究科論集(日本文化編) 査読無、10号、2019年、151 - 161頁、
2. 服部光真、日本中世地域社会構築史の研究、愛知県立大学国際文化研究科博士論文、査読有、2018年、1 - 180頁、<http://id.nii.ac.jp/1166/00003668>
3. 川畑博昭、神話と現実の中の日本、サンパウロ大学紀要『日本研究』、査読無、38巻、2018年、40 - 51頁、<http://revistas.usp.br/ej/article/view/148807>
4. 竹中克行、地中海ヨーロッパの小都市における共同空間の成立、人文地理、査読有、70巻 - 3、2018年、327 - 346頁、https://doi.org/10.4200/jjhg.70.03_327
5. 久富木原玲、ブラジルにおけるハイカイ研究の現在、愛知県立大学日本文学部論集、査読無、9号、2018年、1 - 42頁、info:doi/10.15088/00003488
6. 上川通夫、山寺における文字文化の形成と発見、説話文字文学、査読無、52号、2017年、49 - 60頁、
7. 川畑博昭、<異形>の法の継受 スペイン領グラン・カナリア島の日本国憲法9条にふれて、法政論集、査読無、272号、2017年、185 - 205頁
8. 久富木原玲、日本古典文学における「海」・「海辺」・「海外」、愛知県立大学国際文化研究科論集(日本文化編) 査読無、8号、2017年、1 - 14頁、info:doi/10.15088/00003156
9. 久保蘭愛、鹿児島方言における過去否定形式の歴史、日本語の研究、査読有、12巻 - 4、2016年、18 - 34頁、http://doi.prg/10.20666/nihongonokenkyu.12.4_18
10. 久富木原玲、笑いの歌の源流 芭蕉の排泄表現をめぐる、愛知県立大学日本文化学部論集、査読無、7号、2016年、49 - 63頁、info:doi/10.15088/00002565

〔学会発表〕(計38件)

1. 大塚英二、『吉利支丹抄物』の成立とその地域的特質、第12回ブラジル日本研究国際学会、2018年
2. 上川通夫、「グローバルヒストリー」と日本中世仏教の歴史的位、第12回ブラジル日本研究国際学会、2018年
3. 川畑博昭、日本における人民主権の潜在力、第12回ブラジル日本研究国際学会、2018年
4. 糸魚川美樹、移動の時代と言葉の問題、第12回ブラジル日本研究国際学会、2018年
5. 川畑博昭、日本とスペインの間における法の接触、第6回スペイン日本研究グループ国際学会、2018年
6. 久富木原玲、日本の俳諧・俳句からブラジルのハイカイへ、第12回ブラジル日本研究国際学会、2018年
7. 上川通夫、Manifestacion de ideas democraticas en la historia del Japon medieval、Real Academia Jurisprudencia y Legislacion、2017年
8. 久保蘭愛、ロシア資料の形容詞イ語尾・カ語尾をめぐる、第77回中部日本・日本語研究会、2017年
9. 大塚英二、日本における最後のキリシタン弾圧、コロキウム「イベリア日本関係史 16世紀から今日まで」、2017年
10. 川畑博昭、天皇制の憲法史における共和主義の要素、コロキウム「イベリア日本関係史 16世紀から今日まで」、2017年
11. 久富木原玲、日本古典文学における貴種流離譚について、第24回全伯日本語・日本文学・大学教師学会及び日本研究国際学会、2016年
12. 大塚英二、El Tengu y el diablo en document "Kirishitan Shomotsu"、Seminario Hispano-Japanese Derecho y Humanidades、2015年
13. 山村亜希、Silver, Timber and Rice: Regional Industries and Modernization of Port - town Landscapes in Japan、The 16th International Conference of Historical Geographers

〔図書〕(計16件)

1. 大塚英二、勉誠出版、隠れキリシタンの布教用ノート 吉利支丹抄物、2019年、182頁
2. 青木博史、池上尚、大木一夫、岡崎友子、岡部嘉幸、久保蘭愛、小柳智一、富岡宏太、蜂矢真弓、福沢将樹、宮地朝子、森勇太、吉田永弘、ひつじ書房、日本語文法史研究4、2018年、308頁(199 - 221頁)
3. 久富木原玲、青簡社、源氏物語と和歌の論 異端へのまなざし、2017年、735頁

4. 上川通夫、川畑博昭、大塚英二、堀田英夫、久富木原玲、久保蘭愛、服部光真、糸魚川美樹、三宅宏幸、東満理亜、竹中克行、アナ・イザベル・ガルシア、マルセロ・ホルヘ、カルロス・ペレス・フェルナンデス、パブロ・ガリエゴ・ロドリゲス、イグナシオ・ラモス＝パウル、ホセ・マヌエル・ペドロサ・バルトロメ、リディア・サラ・カハ、勉誠出版、日出づる国と日沈まぬ国、2016年、378頁
5. 上川通夫、吉川弘文館、平安京と中世日本、2015年、235頁

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：川畑 博昭

ローマ字氏名：(KAWABATA, hiroaki)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：日本文化学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：50423843

研究分担者氏名：上川 通夫

ローマ字氏名：(KAMIKAWA, michio)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：日本文化学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：80264703

研究分担者氏名：久富木原 玲

ローマ字氏名：(KUFUKIHARA, rei)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：

職名：学長

研究者番号(8桁)：10209413

研究分担者氏名：服部 光真

ローマ字氏名：(HATTORI, mitsumasa)

所属研究機関名：公益財団法人元興寺文化財研究所

部局名：研究部

職名：研究員

研究者番号(8桁)：00746498

研究分担者氏名：三宅 宏幸

ローマ字氏名：(MIYAKE, hiroyuki)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：日本文化学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：90636086

研究分担者氏名：久保蘭 愛

ローマ字氏名：(KUBOZONO, ai)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：日本文化学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 80706771

研究分担者氏名：糸魚川 美樹

ローマ字氏名：(ITOIGAWA, miki)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：外国語学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 10405152

研究分担者氏名：竹中 克行

ローマ字氏名：(TAKENAKA, katsuyuki)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：外国語学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 90305508

研究分担者氏名：堀田 英夫

ローマ字氏名：(HOTTA, hideo)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：外国語学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 90128637

研究分担者氏名：山村 亜希

ローマ字氏名：(YAMAMURA, aki)

所属研究機関名：京都大学

部局名：人間・環境学研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁): 50335212